

天神畑遺跡発掘調査 現地説明会資料

2011.05.15

調査主体 滋賀県教育委員会

調査機関 財団法人滋賀県文化財保護協会

1. はじめに

滋賀県高島市鴨に所在している天神畑遺跡は青井川の改修工事に伴い平成 20 年度より発掘調査を実施しております。

これまでの調査で縄文時代から近世に至る多彩な遺構・遺物が多数見つかリ、平成 21 年度には出土した柿経（こけらきょう）を公開したところ です。

2. 平成 22 年度の調査

平成 22 年度に調査した場所は河川改修予定地の最南端部にあたります。約 1500 m²を対象に発掘調査を行いました。

調査の結果、古い川の跡が 2 本見つかリ、これらが合流していました。これらの川はすぐに八田川もしくは鴨川とも合流し、多くの川の流が集まる場所であったことが窺えます。

川の中からは弥生時代後期から中世にかけての遺物がたくさん出土しました。川の流は緩く、澱んだような状態であったと考えられます。



2. 大壁建物（大壁造り建物）

幅 60 cm 程度の溝を方形に巡らせた遺構を並んで 2 基検出しました。1 つは南北長 11.6m、もう 1 つは 12.6m で、東西長は調査区外となりますが、ともに 10m 程度と推測されます。溝の内部に穴が多数あります。

この遺構は現段階では、比較的細い柱を骨材とし、さらに、水平材や細い枝を絡めて網のように組み上げ（小舞）それを両側から土で塗り固めて土壁とした建物と考えています。構造・強度から土壁の厚さは十分に厚いものが考えられます。この場合、柱は塗り込めら

れてしまいますので外からは柱の見えない大壁造りの建物となります。そのため、考古学上では同様の遺構をまとめて「大壁建物もしくは大壁造り建物」と呼んでいます。(大壁とはならないが同じ分類内に入る遺構も見つかっているため総称として「土壁建物」と統括的な名称を用いる場合もあります)

溝の中や柱の穴から出土した土器からこの建物の時期は古墳時代前期と考えられます。

2棟並んで検出されましたが、それぞれ方向が少しずつれており、また、2棟が近接しすぎているため、同時期に建っていたものではなく、建て替えて位置をずらしたものと考えられます。それぞれの建物の新旧関係は現在のところ明らかではありません。

3. 渡来系の建築技術

大壁建物の検出例は比較的少なく、これまで滋賀県大津市の穴太(あのを)地区を中心に、近畿地方などでこれまで100例近くの遺構が見つかっています。これまでの検出例では奈良県南郷柳原遺跡の古墳時代中期のものが最も古く、他の多くは古墳時代後期にほぼ集中しています。大壁建物が検出される遺跡は渡来人の痕跡が見られるところが多く、また、朝鮮半島でも検出例があるため、大壁建物は渡来人によってもたらされた建築物のひとつと考えられています。

ただ、これらの建物はまだ研究途上のもので、種類も多く、具体的にどのような建物であったか良くわかっていません。今回検出したような比較的大きな規模のものであっても、内部に柱を持つものはありません。このため1辺10m以上の大きな空間を柱無しで屋根を架けることになり、構造的に疑問が残るところです。大きな屋根を架けた建物ではなく、土塀のような遺構であった可能性もあります。

高島市内でこれまでに大壁建物が検出された例はなく、今回が初めての検出例となります。当遺跡周辺は継体天皇(6世紀前半)とゆかりが深く、継体天皇の父、彦主人王(ひこうしのおう)の根拠地とされています。近隣の遺跡に初期須恵器(古墳時代中期)や韓式系土器が出土する下五反田遺跡や南市東遺跡があり、渡来人と関係が深い集落が営まれています。今回の調査でも韓式系土器の破片が多数出土しています。

今回検出した大壁建物は当地でこれまで知られている渡来人の足跡よりさらに古く、また大壁建物としても最も古い段階のものとなります。若狭や敦賀を経由した北陸方面からの朝鮮半島とのつながりを考えることができるのかもかもしれません。

4. 大壁建物の特殊性

大壁建物は掘立柱建物など他の構造の建物で構成される集落の中に1から2棟が検出されることが多く、また、比較的建築面積が広く大型の建物となります。これらのことから大壁建物は集落の内でも中心的で特殊な建物であったと考えられます。

今回検出した場所は緩い流れの川の合流点であるため、常に水が滞留し湿潤な場所であったと考えられます。東も西もすぐに川が流れている狭い三角形の地形となり、大壁建物

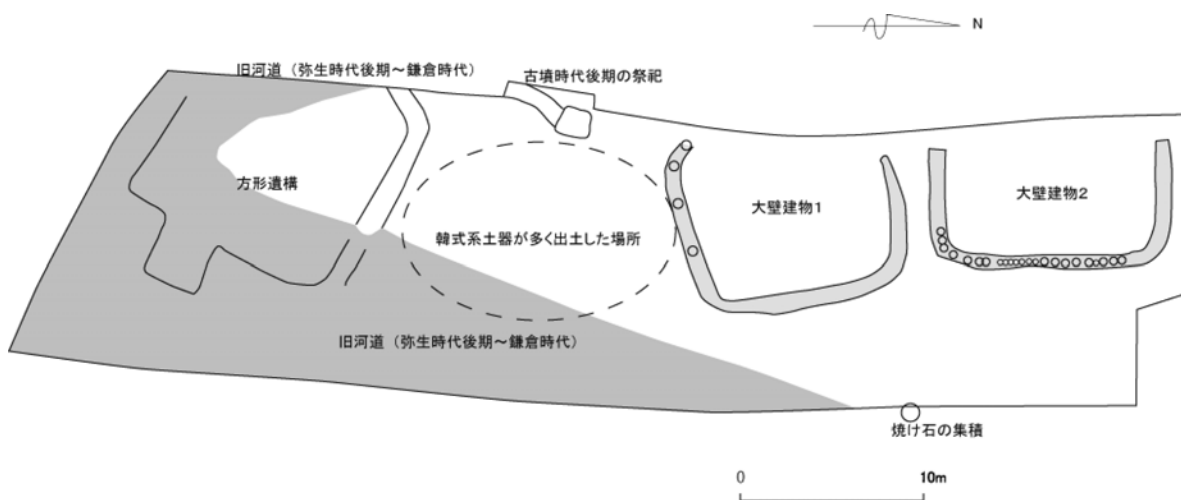
が建っていた場所は川と川に挟まれた幅 20m ほどの狭小の場所となります。地面は柔らかい粘土質で、川に挟まれた狭い地質の良くない場所で居住にはあまり適していません。このため集落からは離れた施設と考えられます。

川の合流点は古くから神が宿る神聖な場所とされ、祭祀場として使われることがよくあります。今回の調査でも弥生時代後期から中世にいたる長きにわたって、さまざまな祭祀に関する遺物が出土し、祭祀が行われてきたような様子を見ることができます。

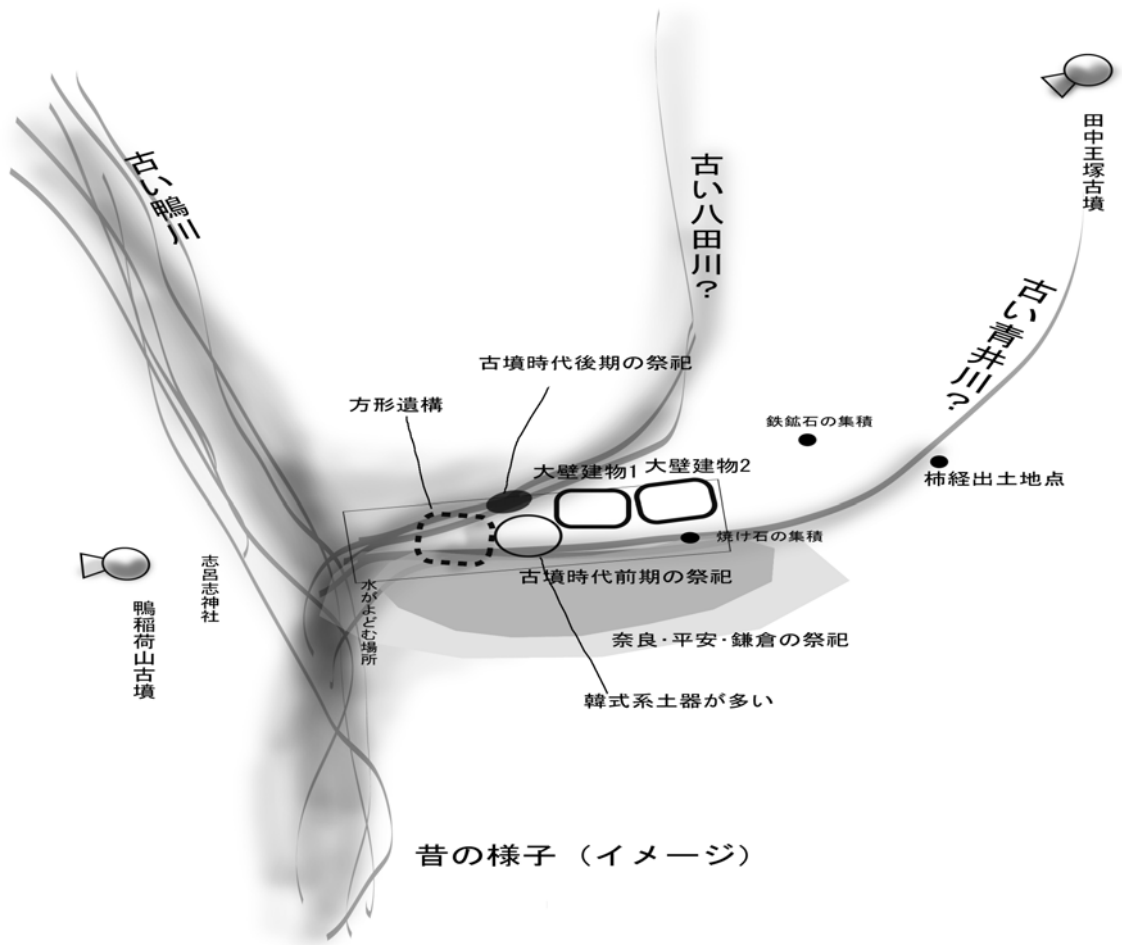
大壁建物もまた同じく神聖な場所で祭祀を行うためあえて川の合流地点に建てた施設として築いた可能性も視野に入れる必要があると考えられます。



検出した大壁建物 2 棟



遺構図



昔の様子 (イメージ)

天神畑遺跡とその周辺

